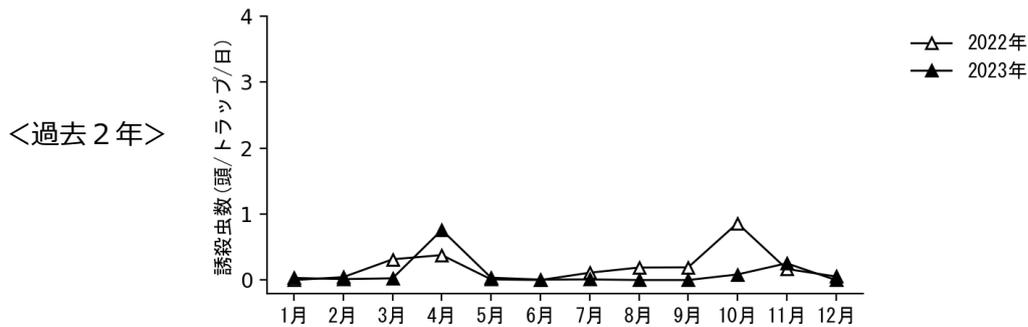
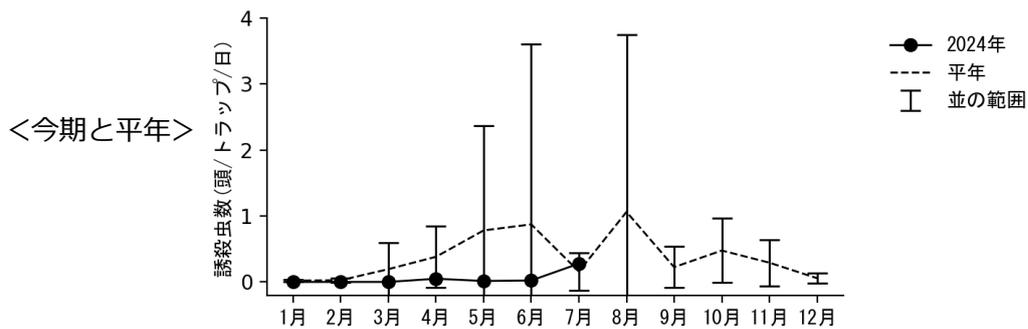


作物	マンゴー	地域	宮古群島
病害虫名	チャノキイロアザミウマ		
調査結果	7 月の発生量 (平年比)	並	
予 報	7 月からの増減傾向	↗	
	8 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

トラップ当たり誘殺虫数の推移



・発生施設率60.0% (平年 : 40.5%)

防除のポイント

- ・不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
- ・コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・収穫期に発生が多かった施設では、せん定終了後に薬剤による防除を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

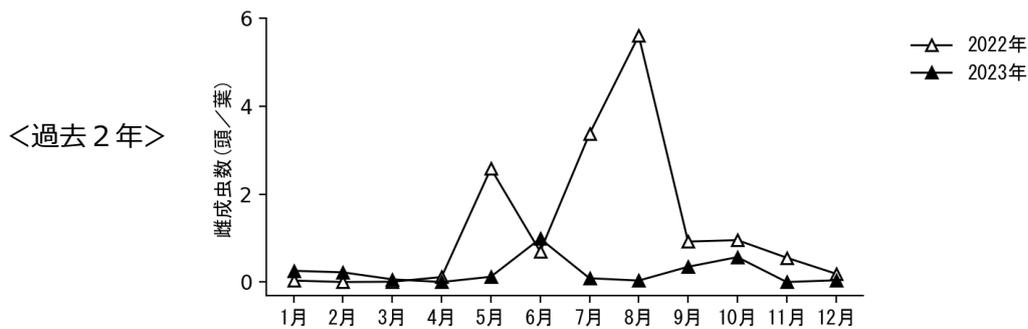
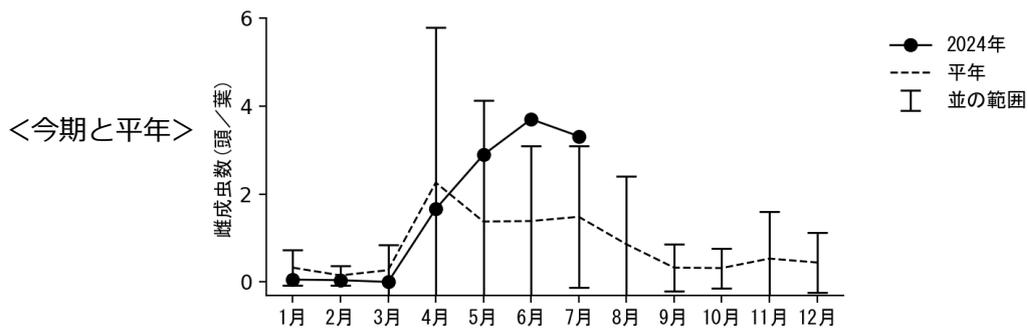


ナガエコミカンソウ

作物	マンゴー	地域	宮古群島
病害虫名	① ハダニ類		
調査結果	7 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	7 月からの増減傾向	↓	
	8 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)	

調査結果

雌成虫数の推移



- ・発生種：シュレイツメハダニ
- ・発生施設率80.0% (平年：53.1%)

防除のポイント

- ・収穫終了後の防除を徹底する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症状



マンゴーツメハダニ

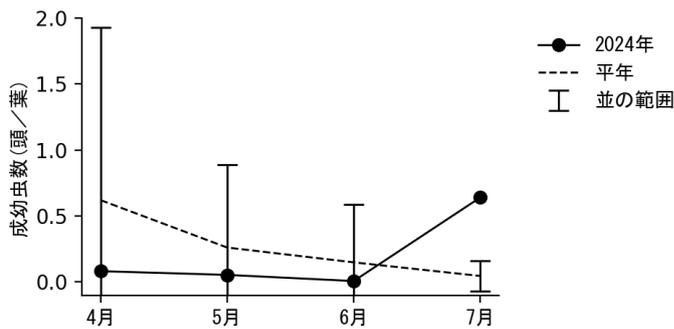
作物	オクラ	地域	宮古群島
病害虫名	アブラムシ類		
調査結果	7 月の発生量 (平年比)	多	
予報	7 月からの増減傾向	—	
	8 月の発生量 (平年比)	—	

予報の根拠

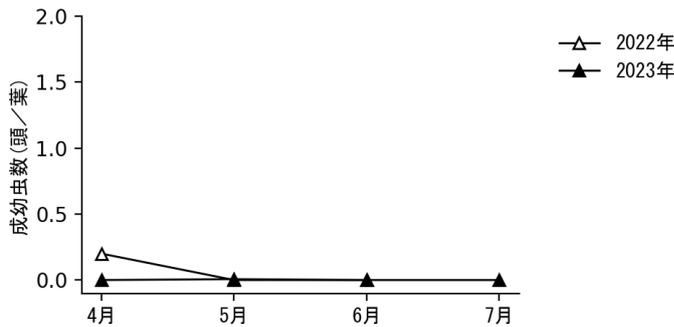
調査結果

成幼虫数の推移

<今期と平年>



<過去2年>



- ・発生種：ワタアブラムシ
- ・発生ほ場率60.0% (平年：7.7%)

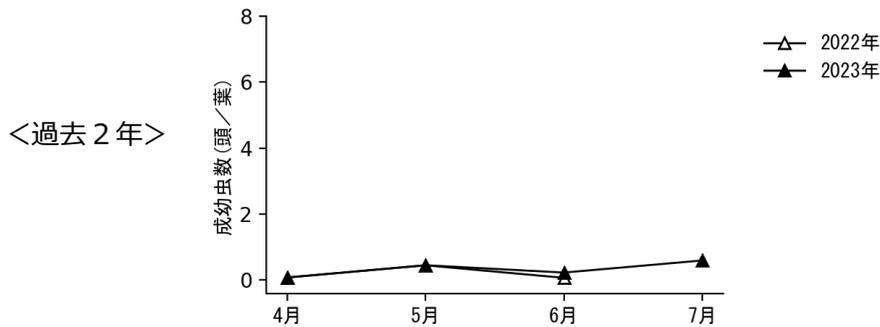
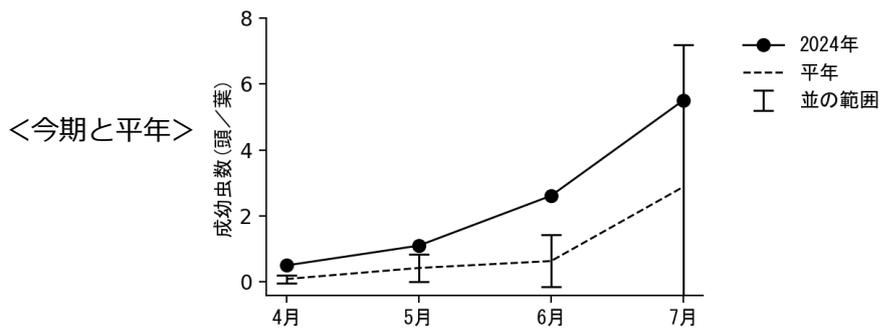
防除のポイント

- ・多発すると新葉の萎縮や芯止まりにより生長が阻害されるため、葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・発生源となるほ場内外の雑草を除去する。

作物	オクラ	地域	宮古群島
病害虫名	フタテンミドリヒメヨコバイ		 <p>成虫</p>
調査結果	7月の発生量（平年比）	並	
予報	7月からの増減傾向	—	
	8月の発生量（平年比）	—	
予報の根拠			

調査結果

成幼虫数の推移



・発生ほ場率100%（平年：76.9%）

防除のポイント

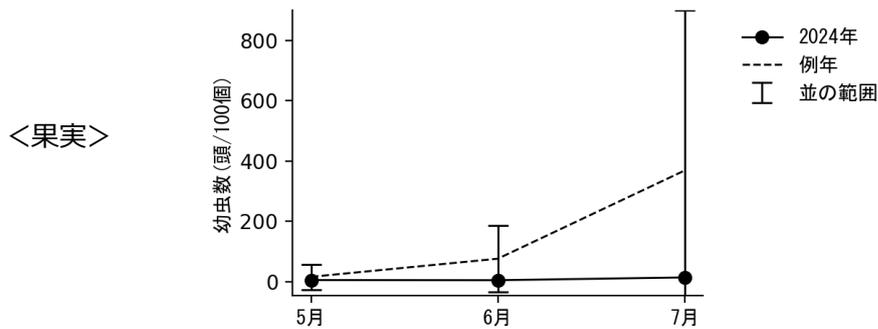
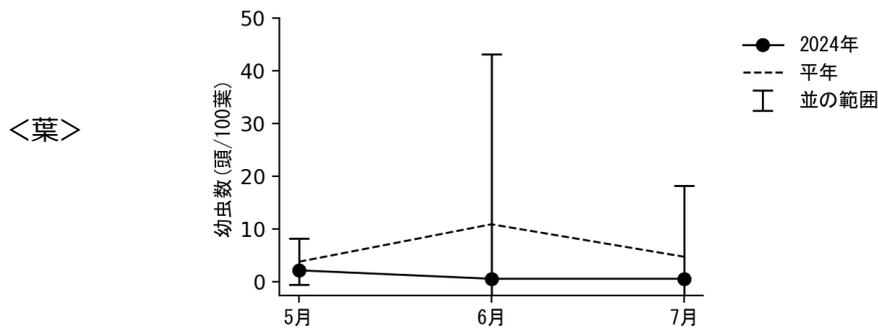
・多発すると被害葉は黄変萎縮するので、葉裏を観察し、早期発見・防除に努める。



作物	オクラ	地域	宮古群島
病害虫名	チョウ目幼虫		
調査結果	7 月の発生量 (平年比)	並	
予報	7 月からの増減傾向	—	
	8 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

幼虫数の推移 (今期と平年)



・発生ほ場率60.0% (平年：20.5%)

防除のポイント

- ・発生密度が低い場合は、捕殺が有効である。
- ・食害痕を発見したら、速やかに薬剤を散布する。

